

ハまゝのこゝもあつてさうして祢津松鷗軒記云まゝの
おとろひも是ハ谷とせぐよむひへ飛りやとて此歌を全
幹のハまゝとて此の歌をつひるハ又柿の皮とまゝとて
向とまゝとてさうして或人云まゝとて此の歌を詞の義を
真直翔マスグてふこと成べし

くれて初月日の末は大小の緒を川の流れに名あやさるゆゑ

古註は此奇可尋知云とてさうして詳あつたゆゑは是ハ月日乃
末は大小あつたゆゑに大小とてさうして大の月小の月乃の緒の大緒小緒

もさうして又二つの緒ハ大緒小緒あつてさうしてその故もさうして
さうして必月日の末は大小あつたゆゑに大の緒小の緒あつて自然の理あり